〔科目名〕 経営情報論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 永松 陽明	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕
〔科目の概要〕 <p>現在の社会は、コンピュータなどの情報技術によって支えられている。鉄道、銀行、コンビニエンスストアなど生活の不可欠なシステムは全て情報技術が重要な部分を担っている。また、GAFA(Google、Amazon、Facebook、Apple)などが提供する情報サービスや SNS(Social Networking Service)などは非常に身近で便利なものとなっている。反面、ユーザの履歴などの情報が提供企業に蓄積され利用もされ、高収益を上げている。加えて、メルカリなどのような新しいサービス企業(ユニコーン企業)の登場なども話題となっている。以上のようなコンピュータに関連する背景、技術、ビジネスの理解は社会で高く求められている。</p> <p>そこで、本授業では、「経営における情報技術の重要性理解」、「情報活用ための基礎知識獲得」、「GAFA のビジネスモデルと課題の理解」、「新しいビジネスの創出プロセスの体験」をねらいとする。</p> <p>具体的には、情報技術のベースである「ハードウェア」、「ソフトウェア」、「ネットワーク」、「データベース」、情報システムを構築する際に不可欠な「業務プロセス」、「プロジェクトマネジメント」について説明を行い情報技術とその周辺管理技術の重要性を解説する。また、データを分析するための統計分析や初歩の Excel マクロなどのプログラムも併せて学ぶことで、情報活用ための基礎知識を育成する。続いて、GAFA のビジネスモデルやそれが抱える課題の解説を行う。例えば、Facebook は Instagram のサービスであることや、Amazon.com はアメリカで税金を非常に圧縮しているなどを説明する。そして、学習の最後に新しいビジネスの創造のための技法(デザイン思考)とプレゼンテーション方法を説明する。それを踏まえ、最終発表を行う。</p> <p>ただし、ホット 이슈や授業の進捗を踏まえつつ、授業のスケジュールは柔軟に変更することがあるので、注意すること。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>最新の情報技術を利用した企業は、経営学分野において重要なトピックスであるため、他の経営学関連の授業においても解説・説明が行われている。そのような授業と本授業で扱う内容を併せて、理解を深めてほしい。</p> <p>また、情報技術は社会に出た際には必ず触れるものであるため、大学生のうちに基本的な仕組みや知識は習得すべきである。本授業で触れる初歩の統計分析は、需要予測などのビジネスシーンで活用されている。また、業務プロセスの改善は仕事を進めていく上で必須の知識である。本授業でその重要性を理解してほしい。</p> <p>加えて、よく使う GAFA のサービスの中身や新しいビジネスの創造のための技法の理解も社会に出る際には不可欠な知識であるため、これも是非理解してほしい。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>本授業の到達目標を下記に示す。</p> <p>【中間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ コンピュータは「指示を与えないと動かない」ことを理解できている。 ➤ 業務プロセスの重要性を理解できている。 ➤ 回帰分析の初歩的な理解ができている。 ➤ GAFAのサービスが理解できている。 ➤ プレゼンテーションを行うためのPowerPointの使い方が理解できている。 <p>【最終目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 経営情報システムが具体的にイメージできるようになっている。 ➤ 業務プロセスの改善方法が身についている。 ➤ 仕事(業務)で使用できるレベルの回帰分析ができる。 ➤ GAFAのビジネスモデルや最新の課題(デジタル課税など)がわかっている。 ➤ 新しいビジネスの素になるアイデアの創出方法として、デザイン思考があることを理解できている。 ➤ 発表をするためのアイデアのブラッシュアップの仕方がわかっている。 ➤ 発表を行うための効果的な方法が身についている。具体的にはグラフや表の効果的な活用など。 		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>学生諸君のコメントを参考にし、順次授業改善を実施する。</p> <p>また、授業の進捗や学生諸君の理解度に応じて、授業内容を柔軟に変更する可能性がある。</p>		

<p>〔教科書〕 永松陽明、柳田義継、藤祐司、仲野友樹、『アイデアの発想・整理・発表』学文社、2018年。</p>	
<p>〔指定図書〕 スコット・ギャロウェイ、『the four GAFAs 四騎士が創り変えた世界』東洋経済新報社、2018年。</p>	
<p>〔参考書〕</p> <p>(1) 野々山隆幸編著、『最新ITを活用する経営情報論』テンブックス、2014年。</p> <p>(2) 永松陽明、「ゲノム解析のビジネス活用と課題」、国立国会図書館調査及び考査局編、『科学技術に関する調査プロジェクト[調査報告書] ライフサイエンスをめぐる諸課題』（国立国会図書館、東京、2016）pp.151-165.</p> <p>(3) 永松陽明、「ビッグデータ利活用の現状と課題」、国立国会図書館調査及び考査局編、『科学技術に関する調査プロジェクト[調査報告書] 情報通信をめぐる諸課題』（国立国会図書館、東京、2015）pp.47-67.</p> <p>(2)～(3)の参考書は、国会図書館のホームページから無料でダウンロードできる。</p>	
<p>〔前提科目〕 特に設定しない。ただし、コンピュータの基本操作（ファイルの作成、保存）などは授業開始前までに学習しておくこと。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 授業では授業スケジュールに記載しているように随時課題に取り組む。また、最終授業時（変更の可能性もある）に「最終発表」を受講者全員に課す。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 授業内の課題は、課題の質の他にも作成プロセスも併せて評価する。また、最終発表は授業を踏まえて作成されていることが評価のポイントである。 最終評価は、授業内課題:70%、最終発表:30%の割合で計算する。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 Word や Excel, Powerpoint を使用して授業を行うが、それらの初心者でも理解を深めることができる授業を行う。ただし、基本操作（ファイルの作成、保存）などは授業開始前までに学習しておくこと。</p>	
<p>〔実務経歴〕 日立製作所にて研究開発業務に従事。詳しくは下記を参照のこと。 https://researchmap.jp/7000006824/</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): インタロダクション 内 容: 授業のねらいを解説した上で、身近になってきている情報技術、情報システムの例を紹介する。 教科書・指定図書:スコット・ギャロウェイ、『the four GAFAs 四騎士が創り変えた世界』東洋経済新報社、2018年。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営情報システム、業務プロセス(1) 内 容:経営情報システムの構成や歴史などを説明し、併せて経営情報システムを構築する上で重要な業務プロセスを解説する。また、学生諸君の身近なアルバイトの業務プロセスを記述し、改善策を検討する。 教科書・指定図書:使用しない。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営情報システム、業務プロセス(2) 内 容:プレゼンテーションの方法について教科書を用いて説明した後に、第2回授業で検討した業務プロセスとその改善策について発表を行い、議論を行う。 教科書・指定図書:永松陽明、柳田義継、藤祐司、仲野友樹、『アイデアの発想・整理・発表』学文社、2018年。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク 内 容:ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークについて解説を行う。併せて、関係する映像資料などの閲覧を行う。 教科書・指定図書:使用しない。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):データベース(1) 内 容:データベースの基本構造を説明した後に、作成のポイントについて解説。実際にPCを用いてデータベースの設計を行う。 教科書・指定図書:使用しない。</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):データベース(2)</p> <p>内 容:前授業に引き続いて、際にPCを用いてデータベースの設計を行う。また、設計についてのポイントについて議論を行う。</p> <p>教科書・指定図書:使用しない。</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):ビジネスで求められる回帰分析・Excel マクロ(1)</p> <p>内 容:ビジネスシーンで求められる回帰分析の例を説明しつつ、Excel を用いた回帰分析を行う。初心者でもわかるようにゆっくり進めていく。</p> <p>教科書・指定図書:永松陽明、柳田義継、藤祐司、仲野友樹、『アイデアの発想・整理・発表』学文社、2018年。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):ビジネスで求められる回帰分析・Excel マクロ(2)</p> <p>内 容:ビジネスシーンで求められるExcelマクロの例を説明しつつ、Excelマクロの作成を行う。初心者でもわかるようにゆっくり進めていく。</p> <p>教科書・指定図書:使用しない。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):ビジネスで求められる回帰分析・Excel マクロ(3)</p> <p>内 容:第7回の授業を踏まえて、実際のデータベース(IMF)からデータ(GDP)をダウンロードし、回帰分析を活用した「需要予測」を行う。</p> <p>教科書・指定図書:永松陽明、柳田義継、藤祐司、仲野友樹、『アイデアの発想・整理・発表』学文社、2018年。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):プロジェクトマネジメント</p> <p>内 容:情報システムを構築する際に不可欠な「プロジェクトマネジメント」の解説を行う。身近な例を題材として、実際にガントチャートの作成を行う。そのガントチャートについては、参加者で議論を行い、ブラッシュアップを行う。</p> <p>教科書・指定図書:使用しない。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): GAF A のビジネスモデルと課題(1)</p> <p>内 容:GAF A の「Google」、「Amazon.com」、「Facebook」、「Apple」についてのビジネスモデルについて、解説を行う。その際に、ビデオを閲覧しつつ、ホット 이슈も把握する。また、それぞれが抱える課題なども議論する。</p> <p>教科書・指定図書:スコット・ギャロウェイ、『the four GAF A 四騎士が創り変えた世界』東洋経済新報社、2018年。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):ユニコーン企業とデザイン思考(1)</p> <p>内 容:新しいビジネスを創出するユニコーン企業とデザイン思考について解説を行う。特に AirBnB のビジネスについてビデオを使用しつつポイントを説明する。併せて、デザイン思考の方法を解説し、実際のアイデアをそのフレームワークに当てはめて各自で作成を進める(課題完成は宿題とし、第14回授業でブラッシュアップし、15回の授業で発表する)。</p> <p>教科書・指定図書: 永松陽明、柳田義継、藤祐司、仲野友樹、『アイデアの発想・整理・発表』学文社、2018年。 スコット・ギャロウェイ、『the four GAF A 四騎士が創り変えた世界』東洋経済新報社、2018年。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): GAF A のビジネスモデルと課題(2)</p> <p>内 容:前授業に引き続いて、GAF A の「Google」、「Amazon.com」、「Facebook」、「Apple」についてのビジネスモデルについて、解説を行う。共通するコアコンピタンスや「デジタル課税」「データ保護」などの課題も議論する。</p> <p>教科書・指定図書:スコット・ギャロウェイ、『the four GAF A 四騎士が創り変えた世界』東洋経済新報社、2018年。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):ユニコーン企業とデザイン思考(2)</p> <p>内 容:宿題をブラッシュアップする時間とする。随時、相談を受ける。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):</p> <p>内 容:12回と14回までで作成したプレゼンテーション資料を発表する。</p> <p>教科書・指定図書:永松陽明、柳田義継、藤祐司、仲野友樹、『アイデアの発想・整理・発表』学文社、2018年。</p>
試験	最終授業時に発表を課す。